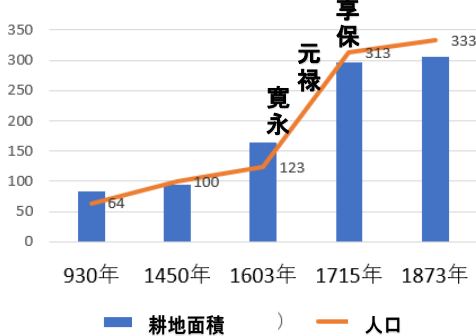


077 江戸時代 享保の改革

享保期から低成長時代に入



・徳川宗家絶える→御三家の **紀伊** 藩主

徳川吉宗 が8代将軍として江戸に入る。

旗本の 大岡忠相 を登用、改革を推進
経済が拡大した元禄時代に武士の都市生活はずいぶんぜい
沢になってしまいました。そこへ低成長時代の突入です。
財政が火の車に。 紀伊 藩主から徳川宗家を継いだ吉宗
は、「何ごとも権現様お定めの通り」と幕政初期に立ち戻
って幕政再建に取り組みました。側用人制度を廃止し、武芸
を奨励し、将軍の呼称も日本国王から 日本国大君 に
戻しました。

・財政再建

あ 上米の制

すべての大名から石高1万石につき100石の米を上納させ
ました。その代わりに参勤交代の在府期間を半年に短縮し
ました。江戸に半年、領国に1年半になります。財政再建
できたので9年後に廃止し、参勤交代も元に戻しました。

い 新田開発 代官見立新田（武蔵野新田）
町人請負新田（紫雲寺湯新田）

う 定免法 の採用

これまでは代官がその年の豊凶を検分して年貢率（免と言
います）を決める 検見法 でしたが、豊凶に関わらず過去10
年の平均収穫高で年貢率（=免）を10年間一定にしました。

え 享保の大飢饉

米は熱帯の作物なので、江戸時代の飢饉は東北地方が中心
ですが享保の大飢饉は大陸から飛来したウンカ・蝗が原因
で、これだけ 西日本中心 の大飢饉でした。→『除蝗録』

お サツマイモ (甘藷) を救荒作物に導入

→ 青木昆陽 に命じて栽培・普及

西日本中心の大飢饉で、吉宗は薩摩藩だけが餓死者を出さ
なかったことに注目しました。薩摩藩は火山灰で米がとれ
ず、琉球から持ち込んだサツマイモを栽培していました。

か『民間政要』の 田中丘隅 を代官に
東海道の川崎宿の名主で、酒匂川の治水をやり遂げた農政
家です。長年の農政経験をまとめた『民間政要』を江戸町
奉行の大岡忠相が読み、代官に抜てきしました。

き 五公五民 (=年貢率50%)に年貢増徴

神尾春央 百姓とごまの油は、搾れば搾るほど
出るものなり。→年貢高過去最高

行政刷新

あ 相対済まし令

民事訴訟を受け付けるのは為政者のサービスであって義務で
はありませんでした。借金に関する訴訟（=金公事といいま
す）は今後受け付けない、相対で解決せよ令です。仕事量が
多くて滞っていた行政事務のスピードアップを図りました。

い 足高の制

江戸幕府の各役職には各々禄高の基準を設けられていました
（勘定奉行3000石）。そこで、それ以下の禄高の者が就任す
る際に、在職中のみ不足している役料を足す制度です。役職
を退任すれば石高は旧来の額に戻るため、幕府の財政的な負
担が軽減できるようになったので、人材登用が進みました。

う 公事方御定書 の制定(非公開)

軍事政権として出発した幕府には明確な刑法がありません
でした。裁判の迅速化のため、明確な裁判の基準を作りました

え 御触書寛保集成…判例集をまとめました。

お 目安箱 設置 評定所の前

- ・ 町火消 の新設 江戸の町をいろは47組に分け、出火元の
地区の住民自身が初期消火⇒武士の定火消
- ・ 小石川養生所 の創設 無料で貧民の治療。赤ひげ先生。
小石川薬草園の中に設置。

米価安の諸色高(諸物価は上がるのに米価だけ下がる)

吉宗は米の増産に成功しました。しかし供給が増えれば価格は下
がりますよね。米価下落は米を売って生活する武士の生活を直撃
します。吉宗は 米公方 と呼ばれるほど米価に気を使いました。

あ 株仲間 の公認 大坂堂島米市場公認

同業者団体を 仲間 といい、公認された仲間が株仲間です。幕
府から株札（かぶふだ）を与えられ、店に掲示しました。大岡忠
相は、株仲間を通じて物価統制しようとした。

い 米商(高間伝兵衛)を通して米買い占め

享保の飢饉で米価大暴騰→ 打ちこわし

う 特産物の生産奨励

経世済民で知られる古学の 荻生徂徠 は、物価引き下げには生
産供給を増やすのが根本だと吉宗・大岡忠相に意見しました。

→ 朝鮮人参、なたね、榧(はぜ)の生産奨励

え 朱子学奨励(例 室鳩巢『六諭衍義大意』)

朱子学は商業を私欲で動くものという理由で蔑視・抑圧しまし
た。徳川吉宗も商工業の奨励は考えず、年貢を限界まで増徴する
しかなく、享保の改革は農村の疲弊を招きました。

産業に役立つ実学奨励

漢訳洋書輸入の禁止緩和

漢文に翻訳されたもので、キリスト教に直接関係ないものは
輸入を認めました。のちの蘭学の発展の土台を作りました。

→ 野呂元直、青木昆陽 にオランダ語習得命令

077 江戸時代 享保の改革